

現地講座 西寺から東寺をめぐる

—発掘現場の見学も含めて—

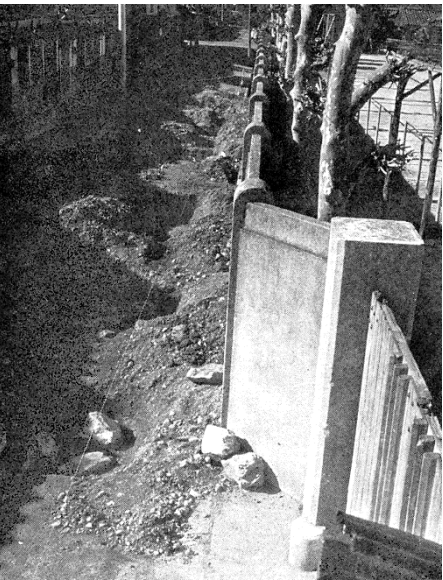
2018年10月27月（土）

- 1 西寺跡発掘現場（唐橋西寺公園 集合）
- 2 西寺南大門跡
- 3 羅城門跡（唐橋羅城門公園）
- 4 東寺南大門
- 5 東寺境内（食堂付近で解散、約1.8km）

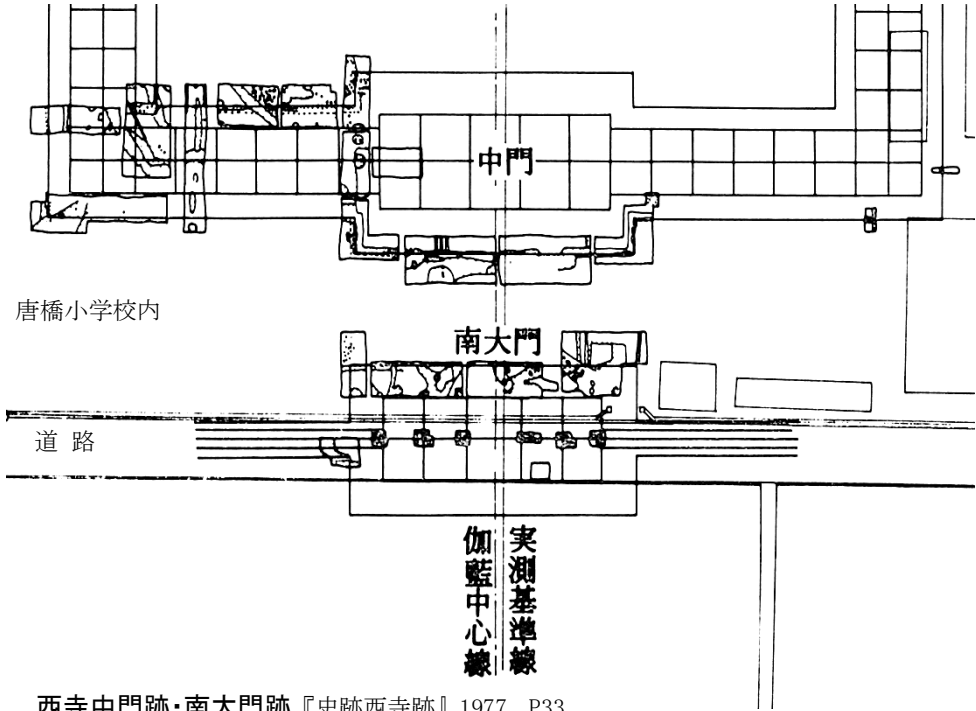


見学ルートマップ 京都渡来文化ネットワーク会議作成『平安京跡イメージマップ』を調製

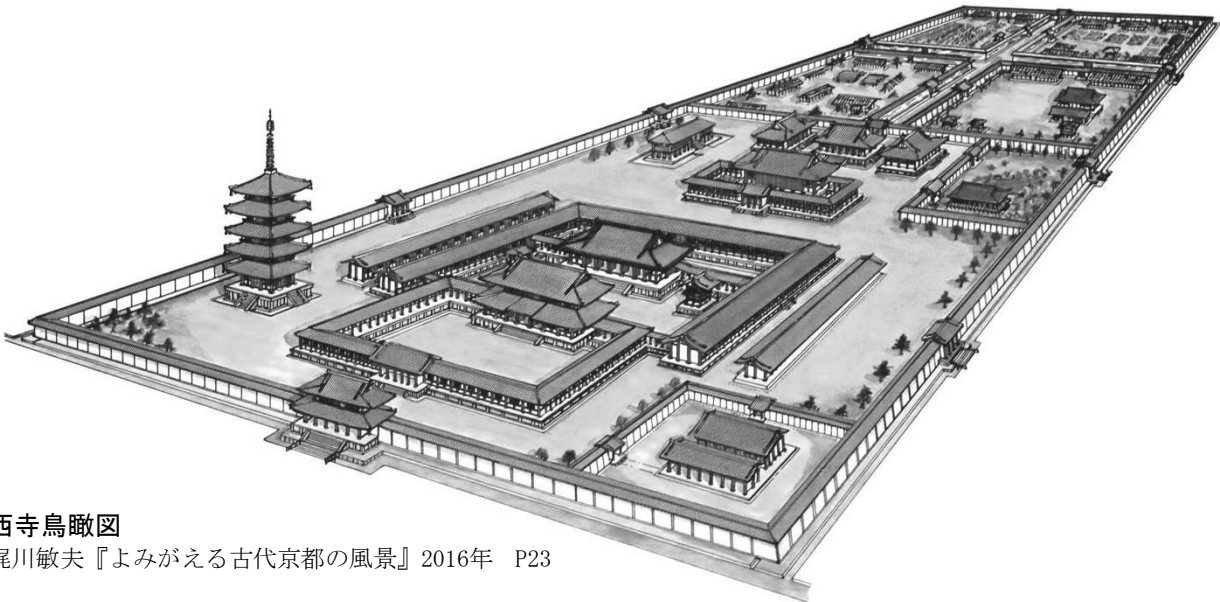
西寺中門跡と東回廊の取り付き部（東から）
『史跡西寺跡』1977 P.23



西寺南大門跡（道路部分、東から）
『史跡西寺跡』1977 P.25



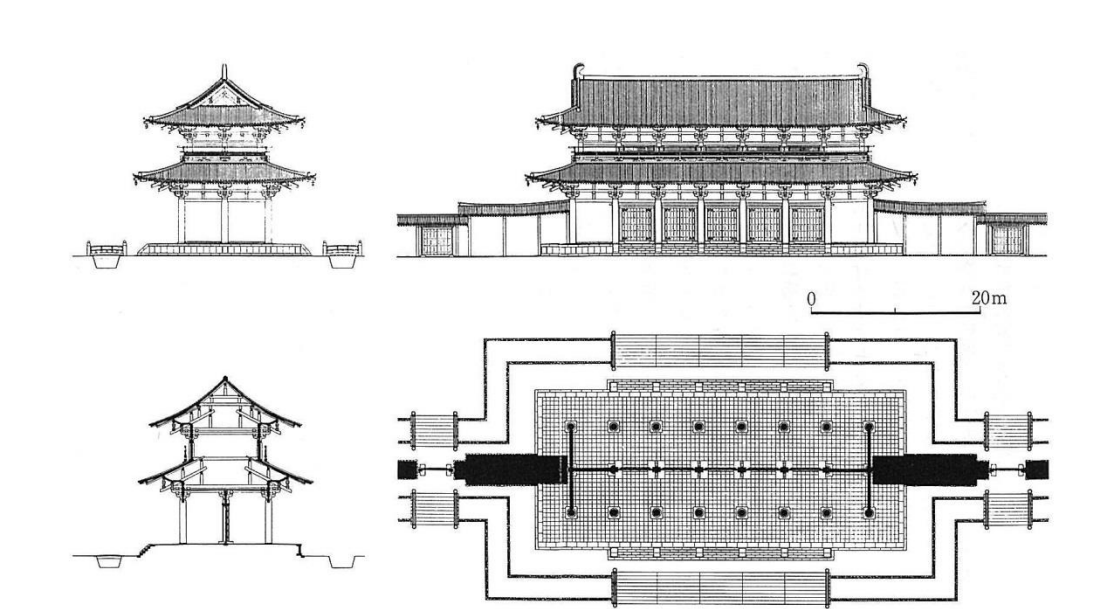
西寺中門跡・南大門跡『史跡西寺跡』1977 P.33



西寺鳥瞰図
梶川敏夫『よみがえる古代京都の風景』2016年 P.23

羅城門跡

- 弘仁7年（816年） 8月16日夜、大風で倒壊（『日本紀略』）
- 天元3年（980年） 7月9日　暴風雨で倒壊　（『百鍊抄』）以後、再建されず。
- 寛弘元年（1004）　丹波守高階業遠が羅城門を造ることを条件に任期延長を申し出た。築造されず。
- 治安3年（1023）　藤原道長が法成寺造営のため羅城門の石を運ばせた。
- 『今昔物語集』「羅城門上層ニ登リテ死人ヲ見シ盗人ノ語」上層に死者が捨てられていた。
- 『拾芥抄』　桁行7間・梁間2間　二重閣とする。
- 裏松固禪『大内裏図考証』では桁行9間とする。
- 明治28年（1895）　平安遷都千百年記念事業の一つで湯本文彦の提案で位置を決め、京都市参事会によって「羅城門遺址」の石碑が建てられた。
- 平成6年（1994）　平安建都千二百年を記念して、付属施設を含む幅8m、奥行3.6、高さ2.4mの10分の1模型が製作された。→2016年に京都駅東側に移設。
- 重層、入母屋造、鴟尾が乗る。正面7間（約35m）、奥行2間（約9m）、二重の楼閣（高約21m）。中央5間に扉が入り左右1間は壁。木部は朱塗り、壁は白土塗り。内と外に幅約24mで5段の石段があった。
- 羅城門の遺構は発見されていない。

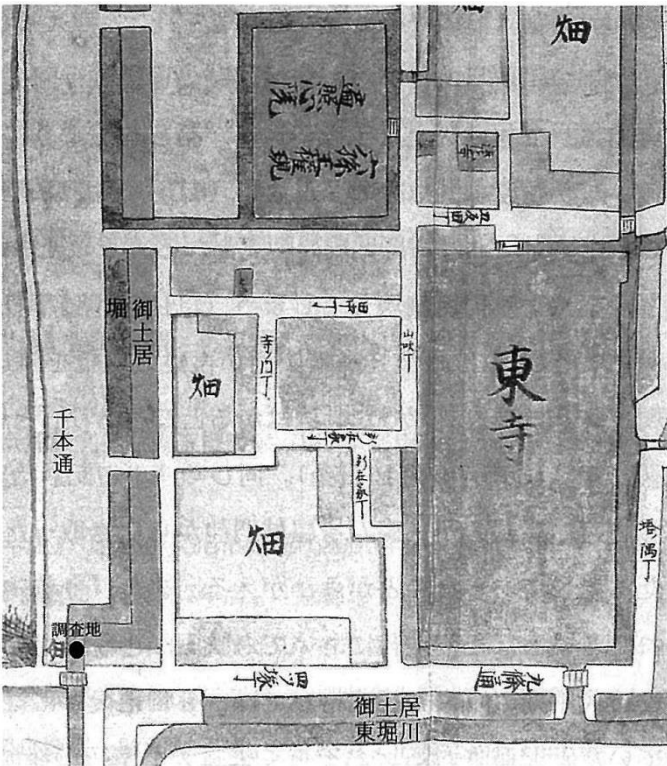


羅城門復元図　『平安京提要』1994年　P303



羅城門鳥瞰図

梶川敏夫『よみがえる古代京都の風景』2016年　P21



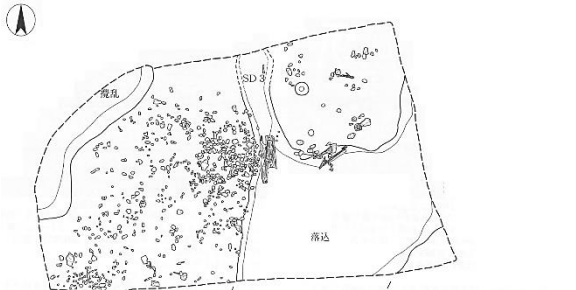
『京師大絵図』

『京都市内遺跡発掘調査報告』平成22年度　P61

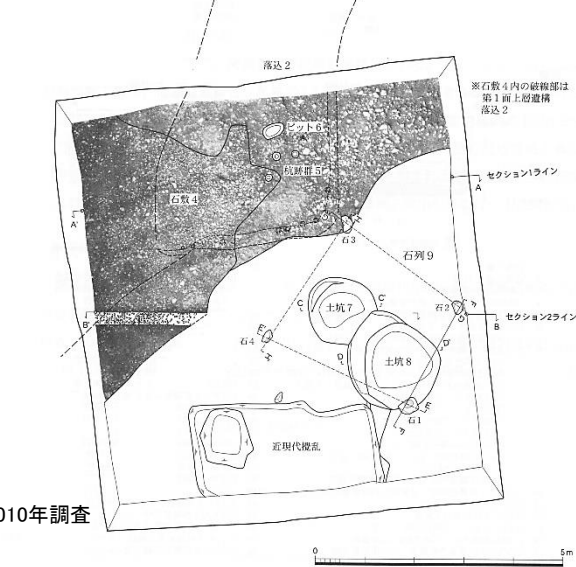
調査地は御土居の堀に由来する鍋取川の流路上に当たる



木造毘沙門天立像（東寺蔵、国宝）
中国・唐から招来され、羅城門の楼上に安置されていたが、天元3年（980）倒壊後、掘り出され東寺に移された。材質は中国産の魏氏桜桃。現在は宝物館の2階に安置。



1977年調査



2010年調査

調査区位置図　『京都市内遺跡発掘調査報告』平成22年度　P52

江戸時代の流路・氾濫原を検出、羅城門の遺構は確認されない。

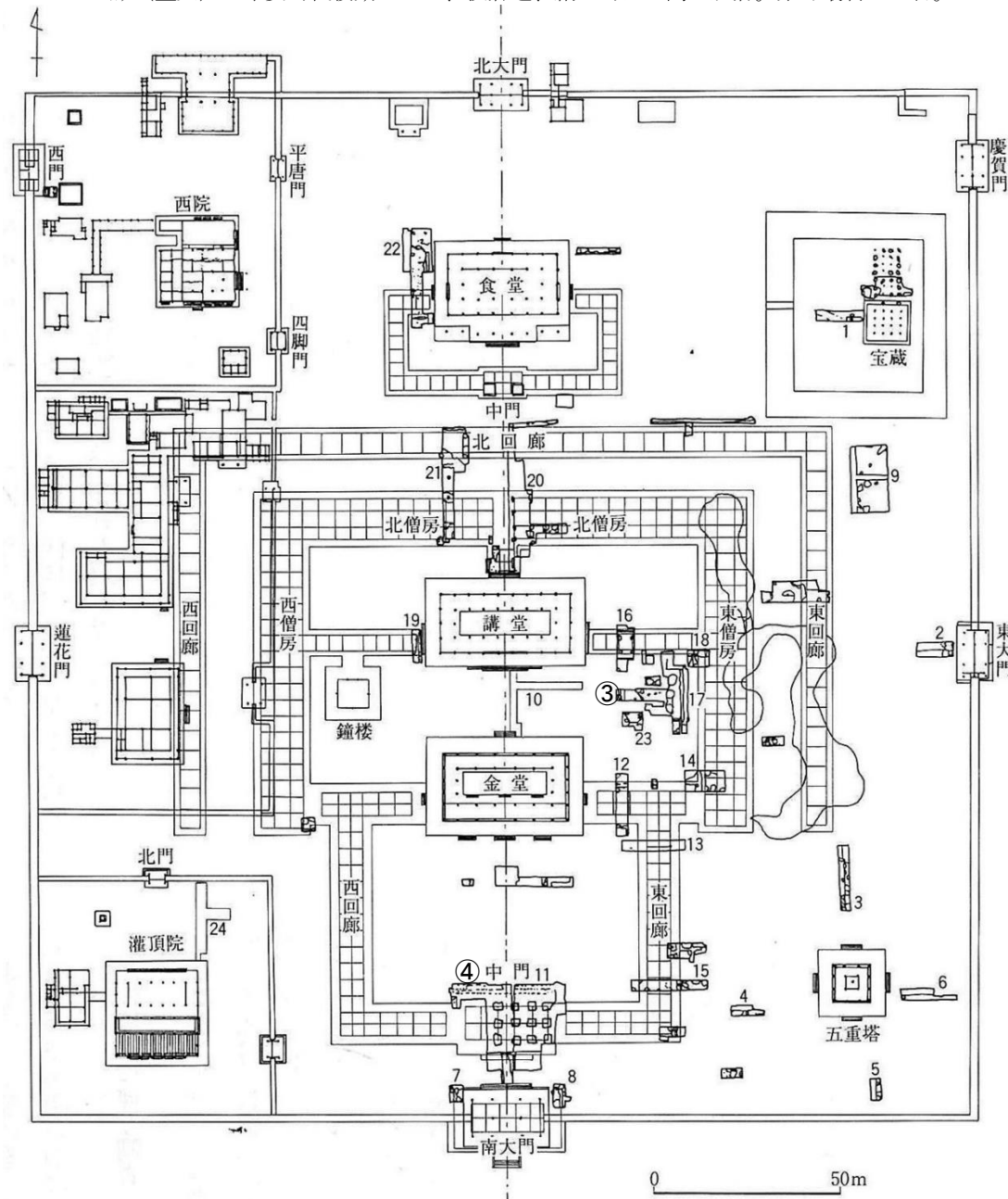


調査区配置図　『京都市内遺跡発掘調査報告』平成22年度　P48　加筆

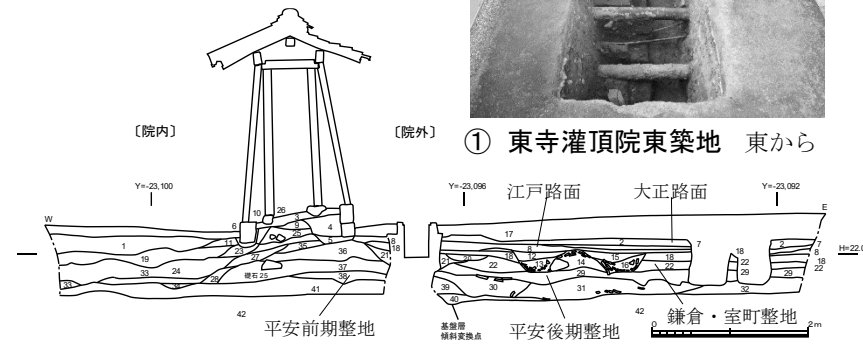
2010年調査地点は羅城門の推定範囲に該当するが遺構・遺物は未検出。

東寺(教王護国寺)

- ・延暦15年（796） 平安京鎮護の官寺として造営される。
- ・弘仁14年（823） 空海が嵯峨天皇より賜り真言宗の根本道場となる。
- ・鎌倉時代以後、大師信仰が広まり信仰を集める。
- ・文明18年（1486） 土一揆による火災で主要伽藍のほとんどが焼失。
- ・豊臣家、徳川家の支援で伽藍は復興。規模と配置は平安時代を維持する。
- ・金堂（国宝） 慶長8年（1603）再建 薬師如来と日光・月光両菩薩、十二神将。
- ・講堂（重文） 延徳3年（1491）再建 大日如来を中心とした21体を密教立体曼荼羅で配置。五智如来は重文。五大菩薩・五大明王・梵天と帝釈天・四天王は国宝。
- ・食堂（未指定） 文禄5年（1596）地震で倒壊。寛政12年（1800）再建、昭和5年に火災に逢い、昭和8年再建。千手観音立像は修復されたが四天王像は表面を樹脂補強して堂内に安置。
- ・五重塔（国宝） 高さ58.4mは日本一。4回焼失し寛永21年（1644）再建の5代目。
- ・御影堂（国宝） 空海が住した西院に建つ住宅風の仏堂。檜皮葺。不動明王坐像（国宝）。
- ・宝蔵（重文） 平安時代後期の建立、校倉造、創建時は11間の双倉。東寺最古の建物。



東寺伽藍復元図 『平安京提要』1994年 P384



① 東寺灌頂院東築地断面図 北壁 2015年度調査
平安時代から近代に至る各時代の整地層を確認



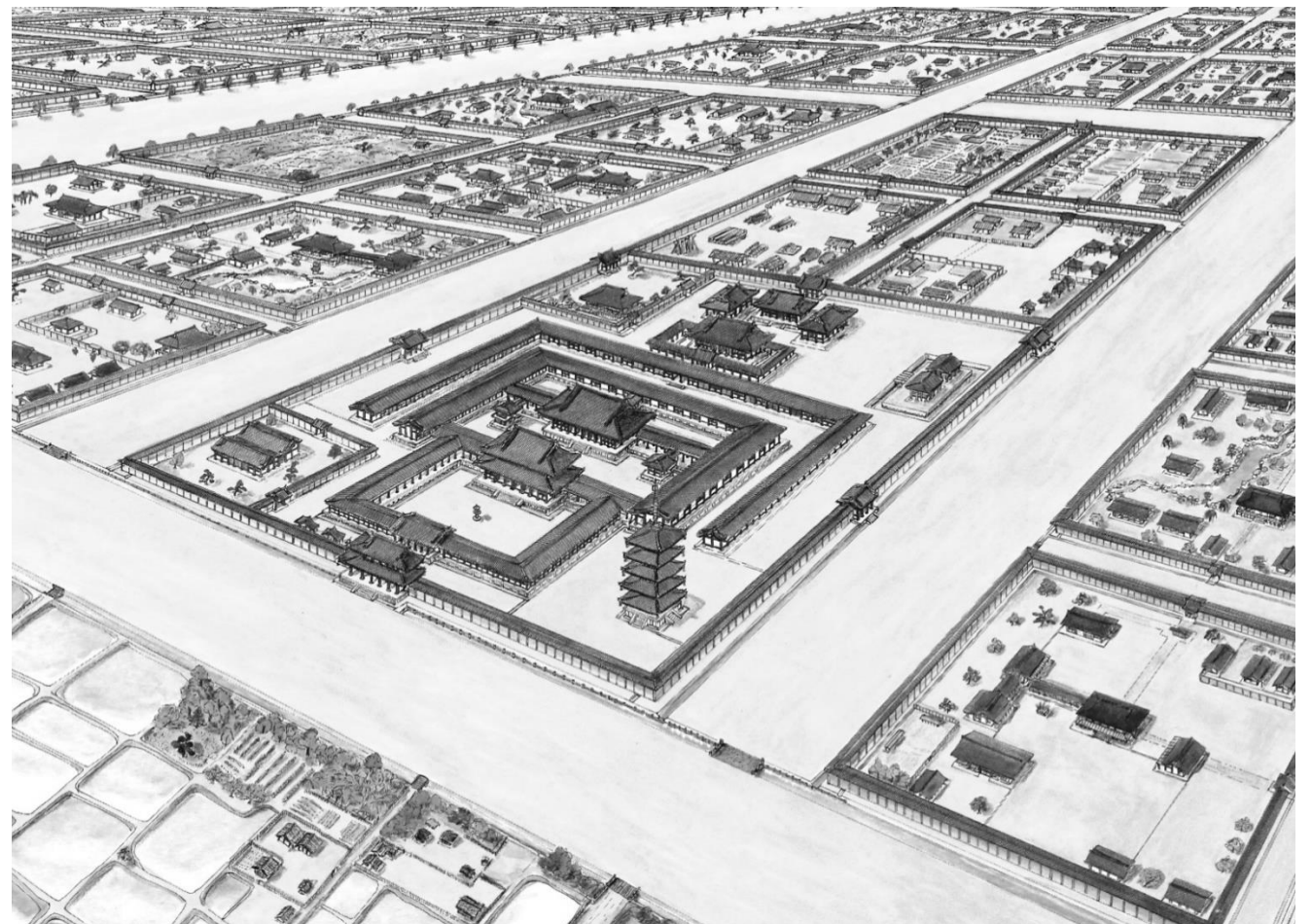
① 東寺灌頂院東築地 東から



② 2016年調査地 第1面 南西から
江戸時代：礎石建物・柵・石列・暗渠・井戸

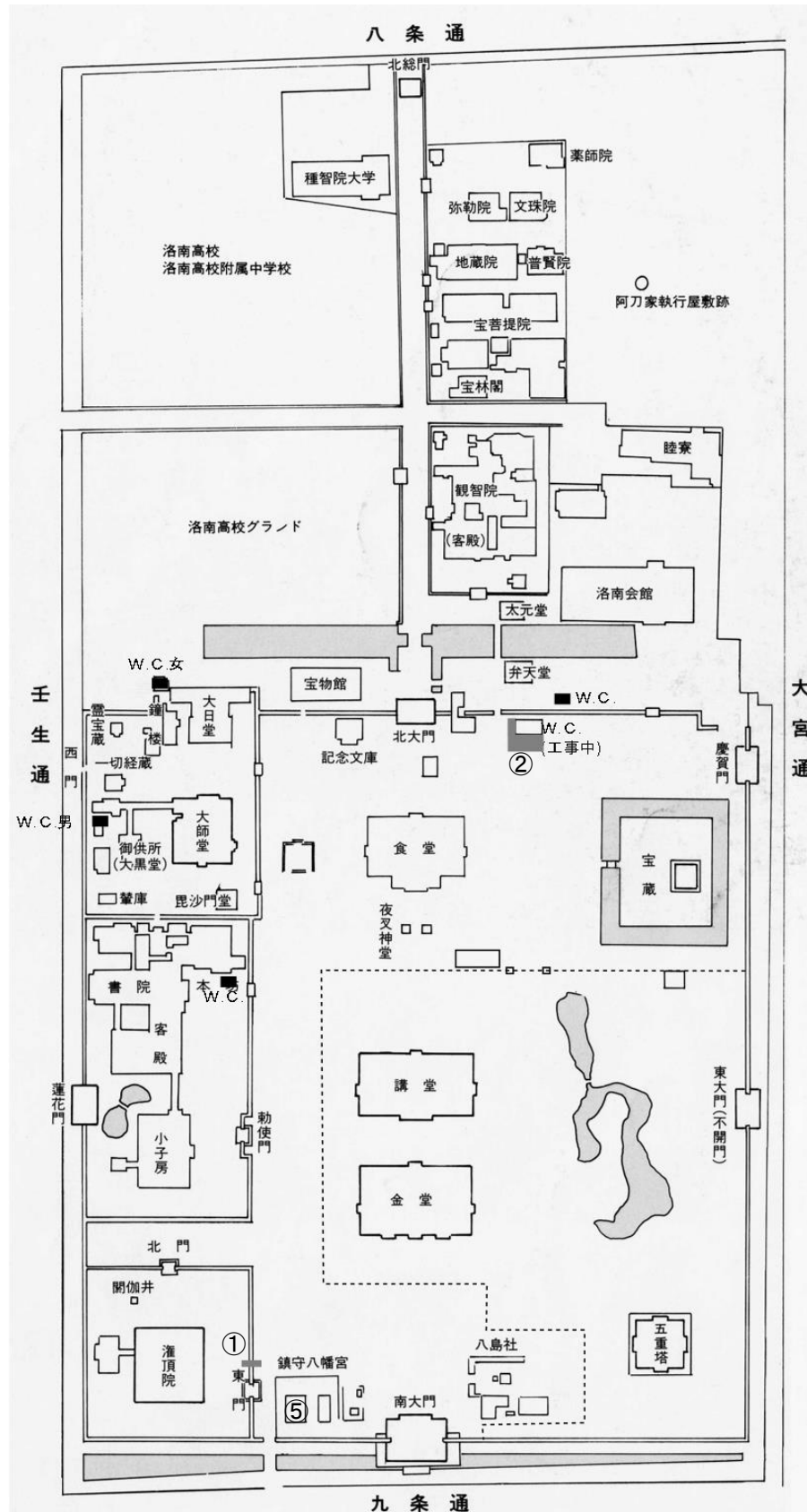


② 2016年調査地 第2面 西から
鎌倉～室町時代：カマド・土坑

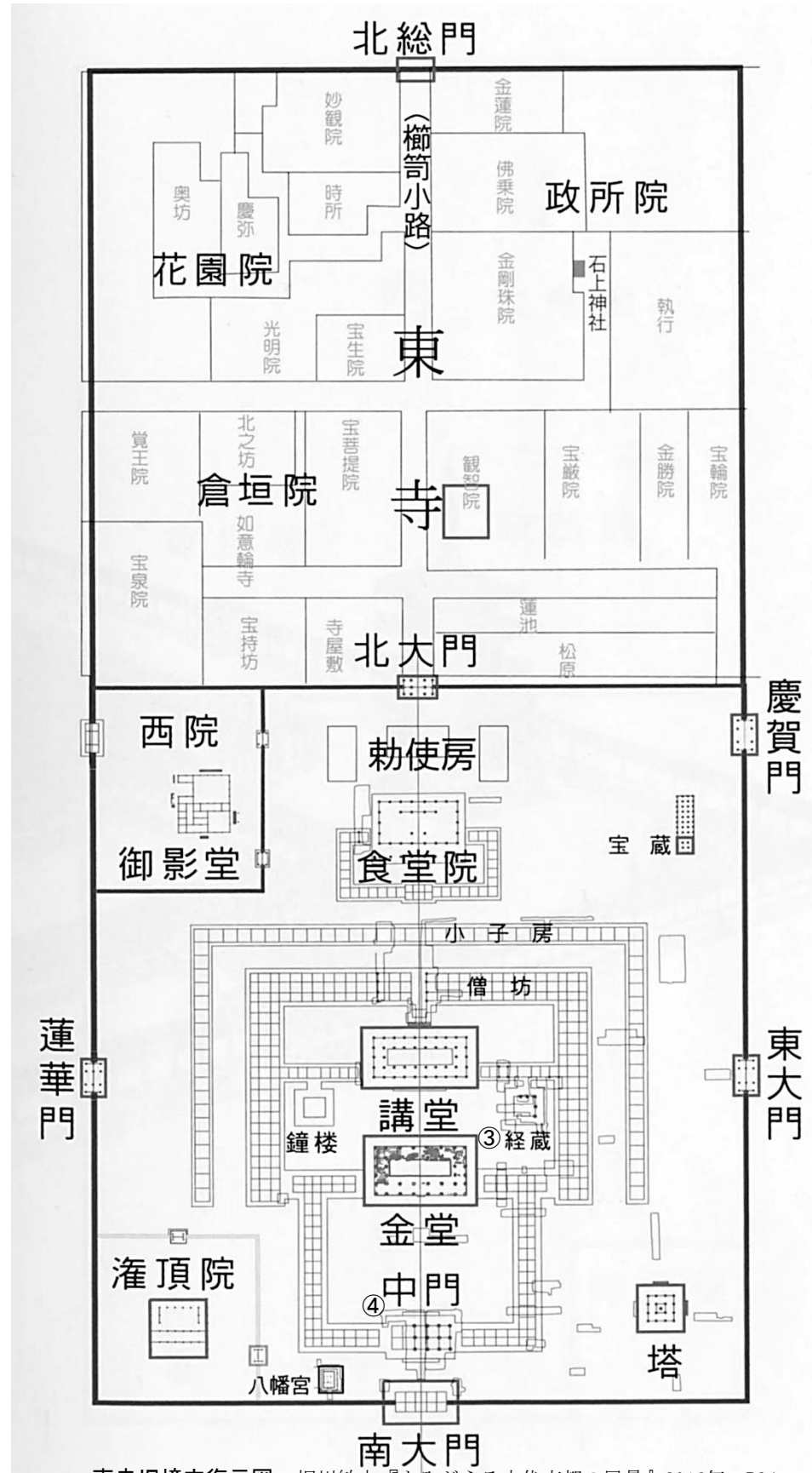


東寺鳥瞰図 梶川敏夫『よみがえる古代京都の風景』2016年 P25

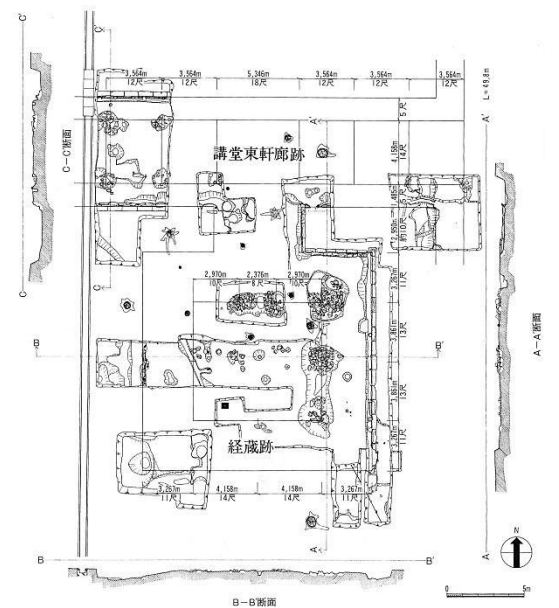
東寺(教王護国寺)



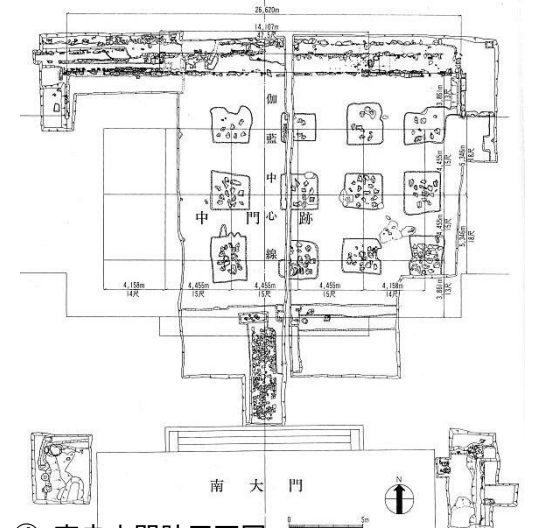
東寺境内図 『東寺の建造物』東寺(教王護国寺)宝物館 1995年 P20



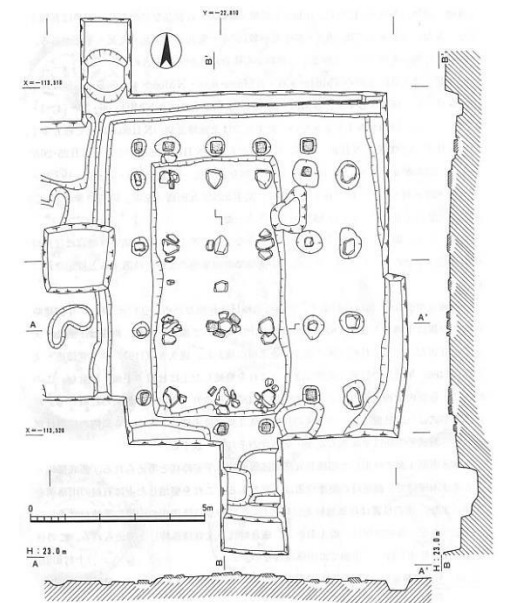
東寺旧境内復元図 梶川敏夫『よみがえる古代京都の風景』2016年 P24



③ 東寺経蔵跡実測図 『教王護国寺防災施設工事・発掘調査報告書』1983年



④ 東寺中門跡平面図 『教王護国寺防災施設工事・発掘調査報告書』1983年



⑤ 東寺鎮守八幡宮実測図 明治元年焼失社殿 『昭和63年度京都市埋蔵文化財調査概要』P35